

イタリアンライグラス、青刈エンバク、大麦とオオクサキビとの同時播き連続栽培

黒江秀雄・恒吉利彦・原田満弘・西 俊彦・石神信男・折田安行 (鹿児島畜産試験場)

Hideo KULOE, Toshihiko TSUNEYOSHI, Mitsuhiro HALADA, Toshihiko NISHI, Nobuo ISIGAMI and Yasuyuki OLITA : Successive Cultivation of Italian Ryegrass, Oats or Barley as Winter Forage and Fall Panicum as Summer Forage

年1回の作付で、年間の多収を得るためのオオクサキビと組合せる冬作物の草種・品種の選定、オオクサキビの播種量、冬作物刈取り後のオオクサキビとの植生交替法について検討したので報告する。

1. 試験方法

1) オオクサキビと組合せる冬作物の草種・品種の選定 (1)試験期間 1980年10月~'83年9月 (2)供試草種・品種 ①オオクサキビ (大分系) ②イタリアンライグラス (サクラワセ, ミナミワセ, ワセユタカ, ヤマアオバ, マンモスイタリアンA) ③青刈エンバク (ハヤテ) ④大麦 (カワホナミ)

2) 初夏の冬作物刈取り後の植生交替法の検討 (1)試験期間 1982年10月~'83年9月 (2)処理 ①不耕起 ②ロータリ耕 ③除草剤 (バラコート) 処理 についてオオクサキビとイタリアンライグラスで検討した。

3) オオクサキビ採種跡地での栽培と同時播き栽培との比較 (1)試験期間 1982年10月~'83年9月 (2)処理 オオクサキビとイタリアンの同時播き栽培でのオオクサキビの播種量 ①採種跡地 (こぼれ種子10kg/10a以上) ②同時播き (2kg, 4kg/10a)

4) 調査項目 草丈, 草種別収量, 年間合計収量

2. 結果および考察

1) オオクサキビと組合せる冬作物の草種・品種の選定 青刈エンバクと大麦は、刈取り後にほとんど再生しなかったため、オオクサキビとスムーズに植生交替した。イタリアンライグラスは、再生がよいためオオクサキビの初期生育を抑制した。年間合計収量は、イタリアンライグラスとの組合せが多収となった。

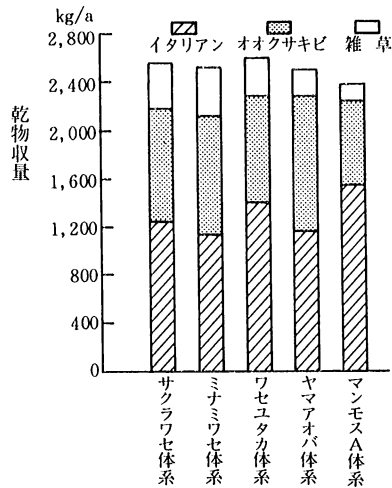
オオクサキビと組合せるイタリアンライグラスの品種は、第1図に示すように、年間収量の中でオオクサキビの多収を目的とする場合は、再生力の弱いヤマアオバがよい。イタリアンライグラスの多収を目的とする場合は、再生力の強いマンモスイタリアンAが適する。年間の多収を目的とする場合は、ワセユタカがよい。

2) 初夏の冬作物刈取り後の植生交替法の検討 オオクサキビ採種跡地での栽培では、第2図に示すように、不耕起区が年間収量は多収であった。オオクサキビの収量は、除草剤処理区が多収であった。イタリアンライグラスの収量は不耕起区が多収であった。

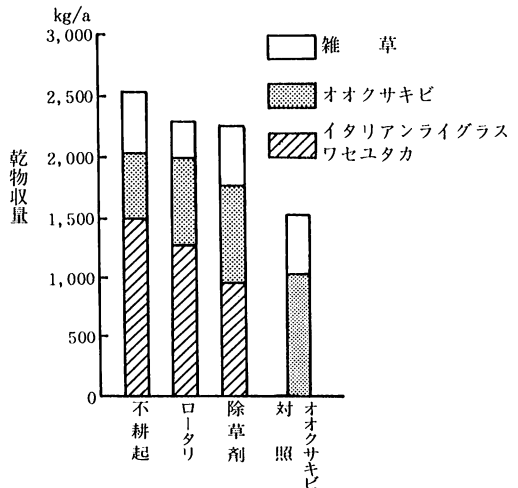
3) オオクサキビ採種跡地での栽培と同時播き栽培との比較 オオクサキビと組合せる草種・品種については、栽培法間に差は認められなかった。冬作物とオオクサキビとの植生交替法についても栽培法間に差は認められなかった。雑草量は播種跡地の方が多傾向にあった。

3. 要約

オオクサキビと冬作物を秋に同時播きする栽培法は、オオクサキビの特性を活かした省力的栽培法である。オオクサキビと組合せる草種はイタリアンライグラスが適し、その品種は、ワセユタカがよい。冬作物刈取り後の植生交替は、ロータリ耕や除草剤処理の必要はなく、不耕起でよい。



第1図 オオクサキビと組合せるイタリアンライグラスの品種選定 (1983年)



第2図 イタリアンライグラスとオオクサキビの植生交替法の違いがオオクサキビの収量および年間収量に及ぼす影響 (1983年)